

ほっとするまちへ

3・11

巻頭言



めざせ！



高感度市政



つくろう！

リサイクル文化都市

無常観

自然と死者をないがしろにした成長の問題性
知性(理性)のみに偏った復興計画はあり得ない。

震災直後一反理性

とくに震災直後には無常観が支配し、これまでの成長のあり
方人生観が問い直されることとなった。

◎復興予算 23 兆円の行方

◎震災カンパ〇〇〇〇〇〇?円の行方

◎復興計画がまとまったという話すら聞

いたことがないが、どうなっているのか?

◎原発立ち入り禁止区域はいつまで続くのか?

農業漁業の従事は?

基本的な政策や対応すらあまり聞いていないが、どうなのか?

(2012年8月~と書いたノートから 9月頃書いたと思われる)



吾唯足知

(知足の精神を表すつくばいの窓をよく書いていた)

上谷耕造が2012年8月末頃から作り出した3つの冊子の最後のもので、「自分史」です。他の2冊「市民が元気なまちに」のVOL.3、4は発行済みです。

第1期市議時代として自分なりにまとめたかっただけです。中味として載せることを「ちゃんとやれよ」と私に指示するかのよう、緑色のノートに書かれていました。附属資料や写真、表紙は私が、ただし「くまネット」資料はパソコンに自分でまとめていました。その日付は2012年9月24日。前日は久しぶりに外病院以外で、でて町内の敬老会でスピーチをしました。その準備のためのノートには『私は「生きるための闘いに励んでいます、皆さん方はお元気で何よりです』とあります。実際にそう言ったかどうか定かではありませんが、人前に出られたことがとても嬉しそうでした。たくさんの方と話ができたようですから、27日久しぶりに議会のため市役所へ。でも、午前中で帰ってきました。それが最後の議会参加でした。

10月になると、徐々に夜かゆく横になることが出来なくて、起きてこの類の作業をやっていたのでしょ。思うようにならないパソコンに向かって。

「市長選へ出馬」「市役所時代の10年」「握りこぶしのなかに(東京)」「未来に向かって(たけ・あったか...)」(1)・(2)」の5期の執筆計画をたてていましたが、かなわぬこととなりました。

報酬アップ反対討論は偶然に残っていた資料から作り直しました。法務局への供託金は本人がきつと理解してくれると、「まるごと館」の屋根のために使いました。

上谷耕造をあたたく支えて下さったたくさんの方々へ感謝の気持ちでいっぱい
です。ありがとうございました。 2013年11月 上谷順子

変える勇氣と挑戦で、切り拓こう！

”夢と安心”ルネッサンス

ほっとするまち、やわた

うえたに・こうぞう事務所&くまネット/〒614-8363

八幡市男山吉井10-27/ Tel&Fax 075-983-8334

(E-mail)uetani-office@kcat.zaq.ne.jp



こんにちは！上谷こうぞうです

2003年2月/NO.57

上谷耕造の市議活動

3期12年のおもな足跡

(1) 91,4~95,3/市議1期目/西村正男(～93,12)、菱田嘉明(98,12～)市長/「市議会REPORT～こんにちは！上谷耕造です」NO.1～21発行

めざせ！高感度市政

つくろう！リサイクル文化都市

■高感度市政＝行政の改革とおもな提言～職員の人材育成と職場の活性化/職員の労働安全衛生対策/行財政&機構改革/情報公開に向け体制整備/議長不信任(→除名)と議会改革/各種審議会委員等の公募

▼リサイクル文化都市＝おもな実績と提言～「市

基本構想」の見直し提言/「男山ふるさと定住構想」提案/生活情報センターを男山に開設/地域校に障害児受け入れ推進/足元からの国際化、ふるさとづくり・地域間交流の提唱推進/公害、路上放置物件の追放/市民活動補償保険制度を拡充/市内パート労働者の退職金制度創設を提案/交通安全対策の強化/図書館充実、市民による生涯学習プランづくり、文化財保護策を推進/水道管の破損と断水対策強化/牛乳パック&あき缶回収、ごみ減量・リサイクル、環境教育の推進、「環境の日」植樹事業、河川浄化など環境問題に取り組む。

市民主体・歴史文化と自然遺産、産業振興、地域資源を活かした…

エコミュージアムのまちへ

★おもな活動～会派「社会市民クラブ」(7人)/経済水道常任委員会(副委員長、委員長)/市監査委員、市財団監査委員/「こんにちは！男山」新聞発行/京都市民自治会議シンポにパネリスト参加/「池田千鶴子さんのハーブコンサート」/四小PTA会長・市P副会長～PTAほか社会教育活動/アルミ缶リサイクル活動/くまネット研修会・市政相談会・市政報告会/市民X'mas/新春放談会/中国・宝鶏市親善訪問(訪中報告会)/郡上八幡へ市民交流視察/「南の島の子ども唄-真南風(まはえ)コンサート」/「JazzでMerry X'mas」/芋掘り&ハーベキュー大会/地域間交流をテーマに市民まつりに出店/南山小通学路(市教委、消防本部など)、団地の居住環境(公団)、違法駐車・物件放置(警察署)問題などで要請/阪神淡路大震災に現地炊きだしなど救援活動/くまネットとして震災被災者の救援策や市施設の安全点検、市民向け防災マニュアル作成など市の防災・安全対策を市長に緊急要請ほか。

報酬アップ反対、返上でさわやか政治推進

(2) 95,4～99,3/市議2期目/菱田嘉明(98,12～02,11)市長/「市議会REPORT～こんにちは！上谷耕造です」NO.22～44発行

■高感度市政＝行政の改革とおもな提言～行財政改革に「特別チーム」編成を/総合計画と実施計画の見直し/分権社会の受け皿づくり-自治体の枠を超えた広域的な視点での人づくりや文化・スポーツ交流、相互援助、情報公開、介護保険、企画政策スタッフの専任配置など-情報公開条例の制定、機構改革で準備室開設など/電子自治体・公共施設の高度情報化の促進/議員報酬アップに反対→否決されたので、アップ分の報酬返上(議員報酬の使途公開)。

▼夢と安心～ほっとするまちへ＝おもな実績と提言～市制20周年の行政課題を提言/環境基本法にもとづく施策の推進(油害や野焼き防止、放置自動車対策含む)/産廃の中間処理施設進出に反対/リサイクルプラザの開設/空き教室や遊休施設の有効活用を提案(高齢・障害者施設、災害用施設)/特色ある学校づくり(現はぐくみネット)を提案/学校で男女混合名簿を実施/四小に「ふるさと」学習館を開設/南山小に学童保育施設新設/バス通学など学童の安全登下校に援助/地域福祉の新時代へ-社協の機能強化と学区福祉委員会の創設など地域福祉のネットワークづくり/地域ミニ・デイサービス開設支援/



1994 中国・宝鷄市親善訪問



1994 年 10 月市民まつりに出店



1995 阪神淡路大震災後 1. 26



元第 4 小学校内ふるさと学習館



(1997 年八幡市議会議事録 資料 2-1) <報酬アップ反対討論>

○議長(牟禮勝弥君) これより委員長報告に対する質疑に入ります。

(「なし」と言う者あり)

○議長(牟禮勝弥君) 質疑なしと認めます。

これより日程第 1、議案第 11 号の討論に入りますまず、反対討論を許します。上谷議員。

(3 番 上谷耕造君登壇)

○3 番(上谷耕造君) ただいま議題となりました日程第 1、議案第 11 号、八幡市議会議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例案につきまして、一人の議員として討論に参加したいと思います。

会派としての結論とはいささか異なるところがあるかも知れませんが、一議員としての心情を披瀝させていただきたいと思いますので、どうかご理解のほどよろしく申し上げます。

まず、本議案及び今回報酬等審議会からの答申に関係する議案を検討する際に大事なことは、この問題が我がまちの主役である市民にとってどういう意味を持つのかということであります。

つまり、市民本位の政策選択なのかどうか、この選択が結果的に市民の利益につながるのか、つながらないのかということであります。つまり、行政がこれは政策選択する場合の物差しであります、この判断であります。加えて、引き上げの当事者である市長をはじめ私ども議員を含む市のリーダーとしての社会的責任論からいってどうなのかという大きく二つの点から検証してみることだと考えます。

私の結論といたしましては、市の財政がパンク寸前にあり、全町全市民が痛みを分かち合い、挙げて自主再建に取り組んでいるこの時期に、私自身、市会議員としてあえて報酬を引き上げるに耐えるだけの資質や活動水準をいまだ持ち合わせていないとの判断に立ち至りました。したがって、受け取る資格がありませんので、本議案を含む関係議案には承服しがたいものがあると言わざるを得ません。

以下、その理由などを述べてみたいと思います。

今回の答申に基づく報酬等の引き上げ対象者は、市長や理事者、議員及び委員らで、直接、間接を問わずいずれの人たちも市政の意思決定や政策の選択に関与する立場にあり、市政全般にわたり責任を負う立場にあることは周知のとおりであり

ります。したがって、こうした人たちに支払われる報酬等は生活給という側面だけではなくて、多分に職務の社会的責任と誇りなど

に対するものではないかというように考えます。ことに、市長と議員は市民から選挙で選ばれた者であり、市民の信託を受けているという点で、他の職業とは異なるものがあることは申すまでもありません。その意味で、市の一般職員の給与が人事院勧告に基づいて毎年改定されるのとはかなり事情が異なります。

そこで、私自身を含む市民から選ばれた者の社会的責任とは何かについて考えてみることにします。かなり資料が古くなりますが、地方自治経営学会が1985年に、議員や行政関係者以外の会員を対象に行った地方議会議員に関するアンケート調査によりますと、議会がそれにふさわしい資質、識見、能力を持っていると思うかという問いに対して、74%がそう思わないと答えています。同様、市民全体の民意をよく反映しているか、あるいは納税者にかわって税金の効率的な使われ方に対する監視を行っているかなどの設問がされていますが、それぞれ一部の支持者だけとの接触が大部分、78%、税金の使われ方の監視についてはほとんど行われていないが81%となっています。これは地方議員が果たすべき社会的責任のほんの一例を問うたものに過ぎないと思えますが、これに対する住民の評価は想像以上に厳しいものがあるといえるかと思えます。

しかも、その後10年余りの間に政治倫理条例や政治倫理法の制定、市民オンブズマンによる直接監査請求などが沸き起こりましたが、基本的にはこうした傾向に変化が生じたとは思えません。

私たちは関係者の不祥事やスキャンダルなどのたびに、政治への信頼回復などという決まり文句をよく耳にし、各種選挙のたびごとに、有権者の政治的無関心や投票率の低下傾向を嘆く声が聞かれます。今のしらけきった政治を、市民にとって真に身近なもの、生き生きとしたおもしろいものにしていくには、行政は言うまでもなく私も議員個人としても、また議会としてもかなりの程度の自己変革が必要ではないでしょうか。このことは本市も例外でないと思えます。本市の場合は、今、財政危機という厳しい外圧に直面しており、国家権力に頼って再建するのではなく、自らの力で行財政改革と自主再建をやらうと頑張っているわけですが、こうした取り組みを通して市長や行政は言うまでもなく、議員個人と議会は市民に対し積極的に情報公開し、市民の市政への関心を喚起していくためのあらゆる努力をすることが社会的責任を果たす道ではないかと考えます。

市議会としては、今定例会の初日にCATV、Kcatの取材を認めただけではありますが、これもその努力の表れと評価できます。が、さらに市民に関われた議会運営や自らの行財政改革と財政自主再建に向けた取り組みも求められていると言わねばなりません。

先の一般質問でも明らかにしましたように、本市の今は決して平時ではなく、むしろ非常時

だという認識を私は持っております。それは、先に日本経済新聞社が発表しました全国664都市の1995年度決算状況のランキングを見るまでもなく明らかであります。ちなみに、人件費と扶助費、交際費が歳出総額に占める割合を表した義務的経費比率は、本市の場合58.66で664都市のうち上から662番目で、全国ワースト3であります。

ところで、今回の改定に伴う必要財源は関係者全員のアップ分がざっと3,500万円弱と見込まれていますが、この金額は今の本市にとって決して無視できる額ではありません。原資はすべて税金などの一般財源であります。事業の種類にもよりますが、一般に市町村の事業ベースで言えば、一般財源のおよそ5倍から10倍の事業が可能と言われております。これに従いますと、5倍で1億7,500万円、10倍では3億5,000万円の事業が可能という単純計算が成り立ちます。今回の改定は、これだけの財政投資と同等の価値を持つものであるということに関係者は今一度冷静に考え直していただきたいと思えます。

こんな状態で、財政が苦しいので援助してほしいと国や府に向かって要望してみても、自ら汗を流して出直してこいと追い返されるに違いありません。今回の報酬アップの影響は、直接的な財政問題にとどまるものではなくて、自主再建に向けた職員や市民の志気をそぎ、頭から冷水を浴びせることにもなりかねません。せっかく市民の間に分権と自治の時代にふさわしい自助、共助、公助という自立の連帯の精神に基づく助け合いのまちづくり機運が芽生えようとしているのに残念でなりません。

政府は、新年度を財政構造改革元年と規定し、確か2003年を目途に計画を達成させようとしていますが、これに連動して国会は議員歳費引き上げの凍結を取り決めしたようであります。本市より財政状況がいいと思われるいくつかの自治体でも同様の取り組みが見られます。

以上から、私は報酬等のアップの前に、やるべきことを先にやるべきではないか、2番目に、その取り組み過程や結果の評価を市民の判断にゆだねるべきではないか、3番目に、その結果、報酬引き上げが必要というならそれに従えばいいではないかという結論に達し、今これができない以上、引き上げは見合すべきだと考えております。

私は、現在、市が進めている行財政改革と財政自主再興事業をよりスムーズに推進していくためにも、この間の一般質問などで主張してきた自らの言動に対して責任を持つ上からも、本議案とともに関係の3議案に賛成するわけにはいきません。どうか議員の皆さん方の健全なる市民感覚に根差した政治的良心と、良識あるご判断を心からご期待申し上げ、私の討論とさせていただきます。よろしく願います。

○議長(牟禮勝弥君) 次に、賛成討論を許します。赤川議員。

(19番 赤川行男君登壇)

(3番 上谷耕造君登壇)

○3番(上谷耕造君) ただいま議題となりました日程第18、議案第1号、平成9年度八幡市一般会計予算案について、一人の議員として以下の条件つきで賛成する立場から討論させていただきます。

既に先の議案第11号、八幡市議会議員の報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例案の審議の際の討論の中でも明らかにいたしました。市の財政がパンク寸前というこの時期に、私自身、市会議員としてあえて報酬を引き上げるに耐えるだけの資質や活動水準をいまだ持ち合わせていないとの判断から、これに反対しました。したがって、新年度の一般会計予算案のうち、その財政的裏づけとなります議員報酬などの引き上げに関係する予算については、財政自主再建を推進するためにも認めることができません。仮に可決した場合でも、当該予算の執行留保を強く求めるものであります。

以上を踏まえ、本議案については賛成の立場を表明し、討論といたします。ご賛同のほどよろしくお願いいたします。

○議長(牟禮勝弥君) ほかにございませんか。

(「なし」と言う者あり)

○議長(牟禮勝弥君) これにて討論を終結いたします。

これより日程第18、議案第1号、平成9年度八幡市一般会計予算案の採決をいたします。

委員長の報告は可決であります。委員長の報告のとおり決することに賛成の方の起立をお願いします。

起立多数(18名対5名)



ルネッサンスやわた

一人になって出直します

「私は受け取る資格ありません」 報酬アップ分を供託

私はこの3月28日付で市議会党派・市民連合(旧社会市民クラブ)を離脱し、一人になって再出発することになりました。新たな気持ちで、「希望のまち・ルネッサンスやわた」をめざし奮闘する所存ですので、旧日のご支援をよろしくお願ひいたします。

党派離脱に至ったきっかけは、今回の市長や議員らの報酬引き上げ問題です。私は、市の財政がパンク寸前にあり、全庁全市民が痛みを分かち合い、あけて自主再建に取り組んでいるこの時期に全く非常識、と考えました。結局この議案は可決し、引き上げられることになりましたが、私は納得できないためアップ分月3万円の受け取りを拒否、法務局に供託することをいたしました。

また、党派離脱で月2万円の調査費も失いますが、引き続き頑張らせていただきます。

●希望のまちには、未来の安心(写真)は、空川三川公園のお手もとされる木造三川公園

市議会REPORT

こんにちは! 上谷耕造

希望のまちへ! ルネッサンスやわた

【うえたに・こうぞう事務所】八幡市男山吉井10-27 <TEL&FAX>075-983-3091
NO. 32

上谷耕造は、お金や組織を持たない「ただの市民」の声を市政に、と頑張っています。市政や暮らしについての相談ごとや提言などは【うえたに事務所】までお寄せ下さい。



97.4

上谷耕造の報酬公開(96年10月-12月、期末手当) <単位円>

収入	金額	備考	支出	金額	備考
議員報酬	1,320,000		印刷費	99,910	
費用弁償	42,000	3,000 × 14回	備品費	50,410	
期末手当	961,400		通信費	90,458	
収入 合計	2,323,400		調査研究費	174,849	
源泉所得税①	292,800	97,600 × 3	交際費	143,329	
議員共済費	145,200	48,400 × 3	事務諸雑費	73,656	
会派費等	19,000		活動費 計	632,612	
源泉所得税②	363,500	期末手当	家計費	500,000	
親睦会費等	6,000	2,000 × 3	借入金返済	300,000	
共済会掛金	14,415	4,805 × 3	支出額 合計	1,432,612	
控除額 合計	840,915		繰越金	△38,381	
収入額 再計	1,482,485		収入-支出	11,492	

市長や議員などの報酬アップについて

改正条例の対象者は市長や助役など市の理事者や教育長、市会議員のほか、固定資産評価員や監査委員、教育委員などの非常勤特別職の職員です。

このうち、市長や理事者、教育長は市政の執行者であり、議員はそのチェック活動などを通じて行政の意志決定過程に加わる訳で、いずれも市政に直接責任を負う立場にあり、市民から信託を受けた社会的責任のある人々です。ことに、選挙で選ばれた人たちは、少なくとも自らが活動報告や議員報酬の使い道の公開などを行うとともに、行政や議会としても情報公開やより市民に開かれた運営方法などに改めていくとともに、市民の政治への関心度を高め信頼回復のために努めるべきです。

私は、今回の市長や議員らの報酬引き上げ議案に対し①引き上げの前に、もっと果たすべき自らの社会的責任があるのではないかと②まずこれに取り組み、その評価を市民に仰ぎ③その結果、これに見合う報酬が必要、というならこれに従えばいいと主張しました。そして、市の財政がバンク寸前にあり全市市民が痛みを分かち合い、あげて自主再建に取り組んでいるこの特期に、私自身、市会議員としてあえて報酬を引き上げるに耐え得るだけの資質や活動水準をいまだ持ち合わせていない、従って、個人として引き上げ分を受け取る資格がない旨の反対討論を行いました。

結局、議案は可決しこの4月分から新報酬となりますが、私には受け取れません。寄付すれば公職選挙法に違反するので、とりあえず当分の間、毎月のアップ分3万円を法務局に供託することにしました。

なお、この情報につきましては、引き続きお知らせいたしますので、ご意見ご提案などをお寄せください。

区分	改定前	改定後
市長	94万円 →	97万円
助役	79 →	81・5
収入役	73 →	75
水道管理者	71 →	73・5
議会議長	52 →	55
副議長	47 →	50
議員	44 →	47

長い間、大変ご苦勞様でした
3月31日付けで、西村喜治保健福祉部次長ほか9名の市職員が退職されました。長い間、市民のためのお仕事ご苦勞様でした。今後とも、お元気で、より一層のご活躍を、心からご祈念申し上げます。



市のイメージアップに尽力

高齢者用住宅改造に助成制度/市駅前地域窓口・観光案内所開設/スタンプ事業など市内商業振興支援/松花堂ふれあいの市の開設、支援/農業公園(市民農園)開設を提案/松花堂照乘にちなみ全国書道展開催(現・書き初め席書大会)/松花堂資料館充実と歴史民俗資料館の開設提案/石清水門前市の開設支援/市のイメージアップに「まちじゅう歴史と自然の博物館」=エコミュージアムのまちづくり提唱/佐藤康光第57期名人杯争奪将棋大会を開設

★おもな活動~議員報酬アップ反対、返上を機に会派「社会市民クラブ」を離脱、会派非所属に。返上分は法務局に供託(合計100万円を超過)/環境経済常任委員会(委員長)/阪神淡路大震災復興支援コンサート(中国古典音楽とハーブ)/はちまん伝説を訪ねる会(岐阜・郡上八幡へ)/新春放談会/あき伍リサイクル/ミニデイ「さつき」支援/日中友好・労働安全対策で西安シルクロード訪問/X'mas Jazz Live/特養「八勝館」ほかの不正流用事件究明/世界閉鎖性海域環境保全会議(EMECSS97)と水環境問題シンポ・ストックホルム会議に参加/児童の安全登下校・地域住民の安全確保対策で組責任者や警察、市、市教委などに要請/教育ルネッサンス・フォーラム/遺伝子組み換え食品に反対し、表示を求める署名支援/自治会づくりや自治活動支援/上谷耕造さわやか旅行会/「南風によってエイサーで踊ろう!」/四小PTA活動と創立20周年事業ほか。

”夢と安心” ~ほっとするまち、やわたへ

(3) 99.4~03.3/市議3期目/菱田嘉明(~0.2)、牟礼勝弥(0.2~)市長/「市議会REPORT~こんにちは!上谷耕造です」NO.45~58発行

■高感度市政へ=行政改革とおもな提言~「財政非常事態宣言」をし、市民に財政状況の公開と再建の道筋を説明すべきと提言(→第4次行財政検討審設置、答申)/希望のまちへ! 抜本的な行財政改革と市長のリーダーシップ発揮を要請/事務事業(行政)評価システム導入に向けた調査研究/職員の能力開発と機構改革の促進/ISO環境マネジメント取得と環境自治体に相応しい施策の推進/合併問題は市の独自調査、市民に情報公開と説明を徹底、市民意志の尊重を提言/市の花木を「椿」に/議員定数削減(24→22)を提案したが2票差で否決(=02年9月議会→次善策に02年12月議会で歳費5%カットを可決)。

▼夢と安心~ほっとするまちへ=おもな実績と提言~学校を開き、地域をつ



市の花木・椿



松花堂ふれあい市



将棋 57 期名人・元四小出身の佐藤康光さん



1995 震災復興支援コンサート



ミニデイ「さつき」



1997. 8 スtockホルム会議参加



くるルネッサンスやわた構想（学校を地域の教育・福祉・防災安全センターとして機能強化し開放することで再生）／分権社会の受け皿となる地域づくり（教育・福祉・防災・美化緑化・交流・自治組織）／余裕教室検討委の設置と学校のバリアフリー化／「はぐくみ協議会」の設置でより開かれた学校に／音楽・文化のまちづくり／市障害者福祉計画にもとづく施策の推進（福祉の枠組み再構築・高齢者・介護保険制度・拠点施設・教育進路）／民生児童委員の役割と地域福祉活動のあり方提案／補聴器調整機器を福祉センターに配備を／障害児を地域の学校に。環境整備も提案／エコミュージアム構想にもとづく”八幡の顔”づくりに、さくら公園・松花堂美術館・流れ橋四季彩館と周辺一帯整備を促進。市駅前・三川公園整備なども/U計画を活かした美濃山まちづくり促進支援／地域開放・環境・バリアフリーなどに配慮した美濃山小の開校／エコシティづくりへ、エコオフィス事業の拡充とポイ捨て・糞害防止など「美しいまちづくり条例」制定、環境基本計画策定など提案／エコ・ショップ導入に向け調査検討／ごみ袋透明化に向け地域団体説明会の実施／火葬費、地域間交流に助成制度新設／介護サービスの点検評価機関（基幹型介護支援センター）の開設／敬老会のあり方検討会の設置／観光資源開発と周遊ルートの設定・観光パンフの発行／背割堤祭りに商工会が出店、にぎわい創出／市内循環バス、周遊自転車道の整備とレンタサイクル事業の推進／松花堂・流れ橋のオープニングイベントに市民への無料開放や仮装行列など提言／21Cのまちづくり戦略を検討する「夢会議」の創設／男山再開発に向けた研究会の設置ほか。

分権時代の新しい政治文化と自治の創造を

★おもな活動～会派「男山市民ネット」結成（2人）、のち「八幡みどりの市民」（4人）に／総務常任委員会（委員長）／副議長／文教厚生常任委員会（委員長）／市高齢者保健福祉計画策定委員／会派ニュース「みどりの薫風」NO.1～.6号発行／エコミュージアムのまち・郡上八幡と大和町で市民交流／くまさんのふるさとブランド共同購入事業／くまネット「わくわくパズル」／東チモール現地報告会／議員活動への学生インターンシップ受け入れ／稲刈り体験交流会／地域自治会づくり支援／市民まつりに出店（会派・くまネット）／市内各所で市政報告&懇談会／男山の居住環境（住都公園・市ほか）、郵便局（郵政局）・派出所設置（警察署）を要望／新春放談会／松花堂ミュージアム・開館記念～「やわたルネッサンスへ！上谷耕造と市民フォーラム」（落語・一人芝居・囲碁教室・まちづくりシンポジウム）／上谷耕造さわやか旅行／男山二中PTA活動と創立30周年事業／西城陽高校PTAと創立20周年事業ほか。



岐阜県郡上八幡



稲刈り体験



学校・地域のあり方を考える

以下に紹介する「学校・地域のあり方を考える」と題する文章は、上谷耕造が市議会議員時代に発行してきた「市議会REPORT～こんにちは！ 上谷耕造です」に掲載したものです。掲載時期は、2000（平成12）年9月＜NO. 49＞、同年11月＜NO. 50＞、2001（平成13）年1月＜NO. 51＞の3回。いまとなってはずいぶん古くなった部分もありますが、参考にしてもらえばありがたいと思います。

「サラリーマンは～ 気楽な～ 稼業と～ きたもんだあ」

最近のテレビCMで若い植木等がうなるこの下りは、私ども「団塊世代」にとって実に懐かしく響くとともに、時代の流れを感じます。

歌のヒットした年代もタイトルも、はっきりとは覚えていません。が、恐らく1960年代初期の頃だと思うので、もう40年近く前にはなるでしょうか。当時流行語となった「わかっちゃいるけど やめられない」と歌う「スーダラ節」とともに一世を風靡した「一億総無責任時代」と呼ばれた頃の歌です。

●学校モノカルチャーの時代

高度成長初期の頃、安月給を嘆く下級サラリーマンたちが、半ばやけくそ気味にその悲哀を歌った歌とされています。今から思えば、一見「豊か」に見えるけれど、リストラと雇用不安にあえぐ昨今のサラリーマン事情とは随分異なり、まだまだ「気楽な稼業」と呼べた、どこかユーモスでのどかさの漂う「良き時代」の歌でもありました。右肩上がりの経済成長と年功序列型賃金が支配し、まじめに努力しさえすれば何とかあった時代。中卒者はみな「金の卵」ともてはやされ、汗水垂らして働いても己の生活が精一杯という低賃金ながらも、社会に活力とパワーがみなぎり、何よりも将来に対する夢と希望がありました。

私はこんな時代を高校まで瀬戸内海・小豆島の田舎町で過ごし、大学からあとはほとんど京都を拠点に暮らしてきたということになります。今年、久しぶりに娘のPTA活動に関わることになったので、当時の私自身の学校生活の思い出などを振り返りながら学校について考えてみることにしました。

私の小豆島時代の学校は、今の学校とは明らかに違っていたように思います。

まず、**情報の発信基地**。学校で学ぶことはどれも新鮮で刺激に満ちていました。きちんと整備された図書室があり、司書の先生もいました。学校の先生は、地域においてもまちの数少ない知識人であり、物知りでした。給食はわが家よりうまいものや珍しいものが味わえました。遠足や修学旅行も初めて行くところばかり。運動会には多くの屋台や出店が陣取り、いか焼き、たこ焼きなど地域一体の“お祭り”ムードが学校のなかにありました。



④ 少子化による学校の統廃合で、新たに誕生した「へすのぎ小学校」(写真は開校式)

そこは、**学校中心のモノカルチャーの世界**でした。学校があらゆる面で地域を取り込み、その中身と水準はともかく、地域の教育や文化、交流のセンターとしての機能と能力を持っていたわけです。学校以外に何もなかった時代の田舎のことなので、当然といえばそれまでですが。

●地盤沈下する地域の学

いまは、どうでしょうか。

情報の発信基地という意味では、メディアの発達や各種カルチャースクール、塾などの登場でその座は奪われ、設備も最近の情報機器の導入までは当時と

ほとんど変わらなかったように思います。先生の地位も、市民の高学歴化で相対的に地盤沈下し、給食や修学旅行も「豊かな時代」の今では意義や目的がずいぶん変わってきたように思います。こうして、いまの学校は地域社会の中に埋没し、存在すらが希薄になってしまった、といえるのではないのでしょうか。

小豆島といえば、壺井栄の「二十四の瞳」に描かれた教育風景を思い浮かべるかもしれません。でも、私が通った頃は、「文部省学力テスト日本一」を誇りとする「教育県・香川」のなかで、「能力別」と称し、義務教育である中学校から試験の成績でクラス分けされ、50人を超えるすし詰め学級で授業が行われていました。戦後のベビーブームの中で育った大量の「団塊の世代」は、誕生とともに激しい競争にさらされながら近代工業社会という時代の要請に見合った「金の卵」、すなわち明治以来の画一、大量生産型教育を体現してきたという現実があります。

高度情報社会への転換期のいま、経済のグローバル化や少子・高齢化、地球環境問題などが加わり、遅ればせながらこれに対応した「教育改革」が進行しつつあります。その足下で、いじめや不登校、学力低下、青少年の凶悪犯罪などが横行しています。子どもたちが生活し、学び育つ場である学校を含む地域社会の再生はいま、焦眉の課題といえます(2000年9月)。

●学校—地域社会の再生へ

新世紀は、IT(情報技術)革命に象徴されるように工業社会から情報社会に取って代わり、モノではなく知恵やところが支配する時代になります、といわれています。情報社会だから、制度的にも中央集権よりもネットワーク型の地方分権の方がいいし、少子・高齢社会とも相まって、また防災や安全という意味でも「地域」が生活や情報発信の受け皿として大きな鍵を握ることになるでしょう。ところが、この「地域」がいまは、いろんな面がかつてのような受け皿としての機能を十分に持ち合わせていないことはご存じの通りです。とくに、男山など新興住宅地域はそうですが、だからこそ意識して地域住民の手で再生していくことが重要となります。

教育の分野では、これまでの画一主義から個性や創造性、自ら学び考える主

体性の尊重など総じて「生きる力」の養成が重んじられるようになります。すでに情報教育とともに、2002年から実施される「学校の完全週5日制」に向けて、**総合的学習**ということで福祉ボランティアや環境問題、実社会での就労体験など諸々の生きた体験学習、ゆとり教育も試みられています。

いま学校は、大きく変わろうとしています、今後どうなるのでしょうか。学校—地域の再生という視点から、地域の学校のあるべき姿を探ってみることにします。

●地域に開かれた柔構造の学校

学校の主人公は子どもたちですから、学校が子どもたちにとって、学びやすく生活しやすい場所でなければならないことはいうまでもありません。でも、実際の学校(教育)は子どもたちにとって非常に窮屈で、現実社会とかけ離れた塀の中であって、地域社会から閉ざされた存在としてあるように思います。

だから、まず、こうした現実から学校を解き放ち、風通しをよくし柔らかい構造にすることから始める必要があるでしょう。そのためには、何よりも学校を地域社会に全面的に開放することです。その際、少なくとも、身体にハンディキャップを持つ人たちも自由に出入りでき、活用できるユニバーサルな施設設備の環境に変えなければならない。

これを前提として、ひとつには、これまで学校が取り組んできた基礎教育をドッグイヤーと呼ばれる社会変化のスピードの激しさや時代の要請に十分に対応できるよう、情報を含む最新・最先端の知育・教育内容に充実強化することが求められます。



▲「学校週5日制」を機に地域の存在が急浮上してきた。「学校・地域・保護者」の3者で毎年共同開催している
「男山二中フェスティバル」

つまり、これまでの学校が果たしてきた狭い意味での教育の機能を質的に高め、豊かに変革することです(従来の狭い意味での学校の変革)。

加えて、現在試みられている狭い教科の枠を超えたトータルな視点から学ぶ総合的学習やゆとり教育などを実のあるものとして本格的に推進することです。

そして言うなれば、こうした「詰め込み」と「ゆとり」といった相反する二つの課題を総合して統一的に「改革」に取り組むことが大切だと思いますが、これには、わけても質量ともに教師をはじめ受け入れる側の力量が大きく問われることとなります。もちろん、学校のノーマライゼーション化をはかるという立場からも、障害児を地域の学校に受け入れることが当然の前提であることはいうまでもありません(2000年11月)。

●多機能な地域センターに

ふたつ目に、学校を地域の教育や情報文化、福祉、防災、交流など多くの機能を持つ、子どもを中心とした**地域住民のセンター**とすることです(新しい、広い意味の学校)。

この地域の多機能センターとしての学校は児童館や公民館、集会所、公園など地域の施設やこれらを利用する子ども、地域の人たちと連携した取り組みが必要です。この学校では、老人から子どもまでいろんな地域の人たちによるタテの世代間交流が期待できるし、テーマ別の、またテーマを超えた横断的なネットワークづくりや相互支援、情報交換も可能となるでしょう。地域の専門家や種々の達人・エキスパートたちによる特別授業や課外活動、体験学習、遊びなどの指導も得られるでしょう。

ここは、いじめや不登校、子育てなどに悩み苦しむ親子やこれを支える仲間たちが、狭い旧来の学校の枠を超えて交流できる生活体験の場であり、「社会的復権」のためのリハビリテーションの場でもあります(柔構造の学校)。

●「みんな違って みんないい」

この学校は、「みんな違って みんないい」と金子みすずが唄ったように、ここに集う一人ひとりが互いに違いを認め異質な文化を交歓しあえる学校世代や領域を超えて教え学び合い、高め合うことを通して生きた「民主主義と分権・自治」を体得していける、新しい時代の学校です。

子育てや教育、障害者や高齢者を中心とした福祉、防災や防犯など種々の地域ネットワークを結ぶ地域の活動交流拠点として、情報の発信基地としての学校でもあり、地域をより生き生きとした暮らしやすい場へと再生していく活動センターでもあります。

市でもいま、児童生徒の減少で増える余裕教室を有効活用しようと取り組みが始まっていますが、このように学校ー地域の再生＝人づくり、まちづくりという視点から、再度この問題をトータルにとらえ直すことが大切ではないでしょうか。

みつつ目に重要なことは、このような**学校の運営**をどうするかです。いま活発な活動で注目されている自治会や自治連合会をはじめPTA組織、老人会や子ども会、青少年対策の組織など地域の諸団体とともに、福祉では、学区福祉委員会と民生児童委員を中心とする助け合いのネットワーク、防災では消防団や自主防災活動のネットワークづくりが進んでいます。同様に今後、学校教育や生涯学習、地域情報、文化、環境問題などテーマ別あるいはシングルイッシュ(単一要求)の自主的自立(律)的な活動グループの連携づくりなども考えられます。

●地域住民による共同運営の学校

こうして、この学校に関わるすべての大人や子どもたちが互いにネットワークをつくり、その代表らが共同で学校運営に参画し、責任を負うことにできれば、分権時代によりふさわしいものとなるでしょう。

以上の要素と機能を合わせ持つ地域の総合的なセンターとしての学校は、地域の子どもたちにとってこれまでとは違った**楽しい学校＝「楽校」**に変身できるのではないかと思います。分権時代の地域自治と子どもたちの本当の意味での「生きる力」を育む方策の枠組みを、私はさし当たりこのように考えています。

私は、議会内外で同様の提案をしてきましたが、これを名付けて「**学校ルネサンス**」と呼んでいます(おわり)。

*「学校 UD(ユニバーサルデザイン)化構想」

①これについては結構で、私の提案を発展させた構想のように思う

②私は、この地域・学校問題では今後の学校の進むべき枠組みについて述べただけで、中味ーとくに学力・教育内容(質の向上)については論及していない。

③今後、教育の質向上が問われるが、その対応は可能か？

私学支援となるか、八高支援も考えられる。スポーツ、学力ほか。



1990年樟葉東公園にて

ゼミ生に戻って学び、生きる糧としたい

(清水慶三先生遺稿集より)

上谷 耕造

「文革文盲^(注)」という言葉が在日中国人の友人から聞いたことがある。文革の長い期間、学生が学業を離れて農村下放や闘いに明け暮れ、学問的な蓄積は言うまでもなく基礎的な教養すら身につけていない、中国のこの世代の「学卒者」を指すようだ。

日本でも同様、時期が一部重なるが全国大学闘争=全共闘運動が吹き荒れた。この時代に大学に身を置いた私どもの世代のなかには、「全共闘文盲」がいても不思議ではない。自慢すべきことではないが、私などはその筆頭格にあげられていい。とにかく、大学のなかでまともに勉強したことなどほとんどなかった。住みかとしていた寮の内外で互いに我流で学んだにすぎない。ちなみに前述した私の友人は逆に、農村下放を体験しながらも日本の大学で学び、いま九州で大学の教員をしている立派な学者であるが。

清水慶三先生に初めてお目にかかりお世話になったのは、1970年から71年にかけての政治学ゼミ。とはいっても、私は当時、授業にはほとんど顔をだしていないうえ、病弱な先生は休講が多かったので失礼ながらゼミの記憶はほとんどない。共産党=民青の暴力支配で学内には入れず、荒神口付近の喫茶店で開いた「ゼミ」に一、二回顔を出した記憶がある程度だ。だから、正直言って清水先生がマルキストで構造改革論者であるという大雑把な認識以外にどんな政治理論を持っておられるのかなどまるで分からないまま、その後も詳しく知る機会をもてないままに終(つい)の別れとなってしまった。

そんな誠に不勉強な身である私にもかかわらず、先生は常に気に留めてくださり、ちょっとした相談ごとにも一生懸命になってくれた。ただ、卒業後もお会いするたびに「あの時はぼくの非力のために、何もできなくて申し訳なかった」と、先生独特の腹の底から絞りだすような声で繰り返されるから、恐縮するばかりだった。

「あの時」とは、私が寮長をしていた頃、事態の打開策を求めて先生を訪ねたと

きのこと。当時、寮費の不払い闘争をしている寮生に、学校当局は卑劣にも保護者を通じて退寮=退学勧告を迫り、これには仲間意識の強い寮生もさすがにこたえて、櫛の歯が抜けるように寮をあとにするものが続いた。このままでは寮自体が成り立たなくなってしまう、という追い詰められたしんどい時期だった。

ところが、共産党支配が圧倒的に強い学内では先生も孤立状態だったわけで、お互いがよく似た立場にあった。期待どおり(?)先生から具体的な解決策は聞けなかったものの、ともに日頃の憂さ晴らしを仕合っただめか、爽快な気分になって不思議と勇気を取り戻して帰ったのを覚えている。

極め付けは、私が初出馬した1991年4月の市議選挙。「体調さえ良ければ真っ先に応援に駆け付けたいところだが、残念。頑張るぞ!」。こんな調子で、檄文やメッセージを何回もいただいた。選挙はがきなどの推せん人も快く引き受けてくださった。

そして当選が決まると、奥さんともども真っ先に喜んでくれた。これからは、議員生活や政治活動全般についてご助言を頂き、先生の大きな後ろ盾で胸を張って仕事に専念できる……こう確信し、希望に胸を膨らませていた。ところが、突如非情の知らせが舞い込んだのは、そのわずか三カ月後のこと。私がこれからという矢先に、心の支えとなるべきあまりにも大事な恩師を亡くしてしまったのだ。

21世紀への世紀末を前に時代はいま、既存の世界観や制度的枠組みが瓦解し、新たな価値尺度や秩序の形成に向けた模索と胎動の只中にある。だが、同世代の多くが希望の明日を確信しきれず、不安と懐疑に満ちた日常の生活の糸のもつれをときほぐせないまま、時の移ろいに身を任せているかのようにも思える。

こうした世界史的転換期——激動と変革の時代を、先生はいかに読み取り、人々の生きるテーマをどのように考えておられたらろうか、誠に興味あるところだ。国内外を問わず、時代は今まさにトータルな「構造的変革」を求めていると思うからだ。

その意味でも、このたびの先生の遺稿集の出版が、今の時代を生きる不勉強な私どもの生きる糧として、教材として十二分に役立つものと大いに期待して

いる。今一度、ゼミ生に戻ったつもりで清水理論を勉強させて頂き、生前からの先生のご期待にたがわぬよう懸命に精進したいと思う。

最後に、先生のご冥福と奥さんをはじめご家族のご多幸を心からご祈念申し上げます。
(京都府八幡市議員・72年法卒) 1995年

*注「文盲」の言葉は会話の中で使われたそのままを書いたのだと思います。不適切なので「」を使って書いている。読んでいて気になる場所なので上谷耕造にかわって、注釈をつけました。

(順子)



清水先生の遺稿集刊行のつどいにて

死者をも含む多数決

「虹の架け橋」(1995年)より

「真の民主主義は死者をも含む多数決だ」との歴史観を持った人物がいることを、最近はじめて知りました。イタリアの学者らしいのですが、その人によると、イタリアではまちや建物を考える場合「過去との対話」を重んじます。五百年や千年という尺度でまちを見、建物の景観などを保全する外観上の保守性、伝統主義と建物の用途の汎用性、革新性の一体化が風格ある都市を形造っています。

さて、戦後50年。日本の場合、冒頭の歴史観を持った人を知りません。最近、過去の反省に関する国会決議や首相談話、各地方議会の戦争と平和をめぐる決議などが話題になりましたが、仮に病死者を含むすべての戦争犠牲者たち(もちろん、アジアの人たちも)の心の奥底に潜む魂との対話がもっと真剣に交わされていたなら、あのような中身にはならなかったのではないでしょうか。結局、「多数決に、死者(の遺志)が加わってなかった」のです。

戦争体験の風化が言われて久しく、戦争の直接体験者が毎年減少している事にもよるとは言え、なぜ、こうしたことが起きるのでしょうか。長期の歴史

13

戦争で敗れたわが民衆は、銃を持たない戦士として、焦土のなかから遅く復興に向けて立ち上がり、企業のために家族のためにと己を忘れて不眠不休で企業戦争に従軍しました。ひたすら前だけを向いて、お互いが競争社会を全速力で突っ走りました。お陰で奇跡の復興と、経済理論の常識をも覆す「黄金の高度成長」をものにすることができました。かくて、世界一の金持ち国、ニッポン誕生と喜んだのも束の間、バブル弾けて「春の夜の夢のごとし」。この間、古いものは壊され、農業は非効率だと切り捨てられ、海は埋められ山は削られて工場が建ちました。学校が変わり、地域が変わり、身近な自然環境が変わり、働き方が変わり、生活スタイルが変わりました。そして、ひとの心も変わった!? わずか50年の間に。

「日本人は反省なき民族だ」などと言ったのは、確か本多勝一だと思いますが、奈良県選出の新進党の女性国会議員は、不戦決議問題で物議を醸しました。曰く、「私は戦争当事者とはいええない世代だから、反省なんかしていない。反省を求められるいわれもない。」

実に明快ですが、こんな子供じみた発言でことが足りるのでしょうか。私も彼女と同様、「戦争当事者の世代」ではありません。まして戦争に関する意思決定には参加していません。でも、私たちの世代は、良いものも悪いものも含めて、彼等から「遺産」として引き継いでいると考えるのが順当ではないでしょうか。ちょうど民法上の遺産相続が、「負の財産」をも同時に引継ぐように。従って、戦前生まれ、戦後生まれに関係なく、先の戦争の責任が世代を超えてあるのは当然です。アジアの民衆は、老いも若きも日本人全体の戦争責任を問うているのです。

バブルが弾けて、日本経済はもはや今までのように右肩上がりの成長を続けることが出来ません。真面目に働きさえすれば必ず報われるという戦後続いた黙契や、学校さえ出ればどうにかなるという甘い幻想も過去のものになるうとしています。これまでの常識が常識でなくなる時代がやってきたのです。

20世紀という百年世紀の終末であるとともに、千年世紀の終末でもあり、新世紀への入り口に当たる現在という地点に立って、あるいは戦後50年という節目の年にあたって、いろんなことを考えます。20世紀は、一口にいって、「戦争と革命」の動乱の時代でした。イギリス、次いでアメリカ・ソ連が世界に君臨

私たちがめざすもの……

(A) 私たちがめざすくまちづくり

- 1) うつくしい ちきゅうを こどもたちに! 自然と共生できるまち、いのちと環境を守るまちをめざして「環境アセスメント条例」を制定しよう
 - ・男山の緑を守り、木津川・淀川ほか市内の川の命を甦らせよう
 - ・公園、空き地などの除草剤・殺虫剤散布の見直し、合成洗剤進放、もっと安全な飲み水を
 - ・幹線道路開発に伴う環境汚染の防止
 - ・カラオケBOX、ラブホテルなどの規制
 - ・住宅建設の際は「緑の空間」確保を
- 2) 「ヒト、モノ、カネの使い捨て」文化を見直し「ゆとり」と「潤い」、「ふれあい」と連帯、省資源・リサイクル重視型の「暮らし」の文化を
- 3) 都市機能を整備。充実し、個性と創造性あふれる快適なまちに
 - ・地域で生活し、働き、学ぶ市民が愛情と誇りを持って暮らせるまち
 - ・「障害」児者、高齢者が普通に利用・動き回れる都市構造・都市施設に

(B) 私たちがめざすく市政と自治

- 1) 市民パワーの結集で、開かれた高感度市政の実現へ:
市民と市職員の潜勢力を最大限引出し、互いの連携で21世紀へと飛躍する感度のいい市政を実現(国際性・独創性・地域性)
- 2) イデオロギー優先や利益誘導型政治に反対し、市民の立場にたった“リーanna、生活者の政治”を市民とともに実現します。
- 3) 市民参加の市政へ! 情報公開条例を制定します。
プライバシーの保護を基本に、市民の“知る権利”を保障し市民が市政を監視し、提案・参加できるようにします。
- 4) 市民の自主・自律活動の活性化とネットワークづくりを。そのための活動センターづくりをめざします
自治の基本は、「自分たちのことは自分たちの手で治める」ということ。
自主・自律的な市民活動は、そのための訓練であり実験です。活動の活性化をはかり、さらに相互に結び合っていくことが大切です。

(C) 私たちがめざすく教育とこども

- 1) 地域に開かれた学校に(市民参加でつくる教育現場)
- 2) 地元の学校を育てよう(のびのび学習できる教育現場)

し、西欧工業文明(キリスト教文明)が地球上の価値観を支配しました。富の偏在に怒り、人として生きる権利を獲るために幾多の鮮血を流し、気の遠くなるほどの屍を乗り越えて進みました。かくて、闘い、勝ち獲てきた眩しいばかりの人権や市民権、社会権、民族自決権……この世紀は、デモクラシーと「人間の世紀」でもありました。同時にそれは、ヒト=ホモサピエンスがこの世の「王者」だとして地球を支配し、自然を欲しいまま篡奪^{さんだつ}してきた「人間中心主義の世紀」だったのもこの時代の特徴です。

こうした二十世紀の成果と反省のうえに立って、来るべき新世紀にどんな遺産を引継ぎ、何を期待し、いかなる創造が可能なのでしょうか。イギリスの支配やソ連・アメリカ体制、社会主義はすでに崩壊しました。西欧文明の相対化やポスト・モダンの動きはかなりの程度進んでいると思うし、現代工業文明も世界不況で現実的に行き詰まり、デモクラシーは今ひとつ先が見えませんが、自然と人間は「共生」の方向で進みつつあるようです。さて、「顔の見えない国、ニッポン」は、どこへ行くのでしょうか。

いずれにしても、いま日本人である私たちにとって大事なことは、とりあえず走るのを止めて、ちょっと立ち止まり、「自分が何者か」を考えてみることでしょう。そして、「未来」や「現在」をあれこれ言う前に「過去との対話」をお薦めしたい。自分や家族、そしてちょっぴりお隣さんや世の中のことに ついて。バブルが弾けた今は、その好機のはずです。「真のデモクラシー」のために。

上谷耕造 (八幡市議会議員)

* 3.11大震災からの東北の復興をめざす場合も、こうした「死者の意向」を組み込んだ復興計画が不可欠だという識者(山折哲雄・内山節ほか)は多い。自然と死者をないがしろにした成長、知性(理性)偏重の復興計画はあり得ない。生きた者だけの民主主義ではなく、死者をも含んだ民主主義でなければならぬ、と言う。(作りかけの冊子に赤ペンで書いていた)

- 3) 児童生徒の人権を守ろう(人権教育の推進、「子どもの権利条約」批准)
- 4) 学校給食の充実をはかり、より安全なものに
- 5) 教育費の公的補助と負担軽減を
- 6) 市民参加でつくる「自由生涯学習」プランを(市民大学の開設、社会教育施設の充実)
- 7) 教育委員の公選制をめざそう

(D) 私たちがめざす<反核・脱原発・平和・人権>

- 1) 憲法の平和主義の理念を尊重し、平和をつくりだす運動を地域で実践する。当面、「非核平和都市宣言」の趣旨を発展させ、取り組みを強める
- 2) 原発施設の安全のための総点検を国や府、電力会社に迫る。また、市独自の「原子力防災対策」をつくり放射線の危険性やエネルギー消費の見直しなどに関する啓発活動、「防災訓練」などを行う
- 3) あらゆる差別に反対し、公正・平等の政治をめざす
- 4) 異文化・異なった価値観との共存、在日外国人の人権保障・市民レベルの草の根国際交流を推進・援助するなど「足元(地域)からの国際化」をはかる

(E) 私たちがめざす<福祉と労働>

- 1) 子供もお年寄りも「障害」者もみんなが一緒に生き、社会参加できるやさしいまちづくりをめざします(強者中心の競争社会からいたわりの共生社会へ)
 - ・お年寄り…高齢化社会の到来は、競争社会に終止符を打ち長い間培ってきたお年寄りの知恵と経験を生かせ人間の尊厳といたわりに満ちた社会を実現する大きなチャンスです
 - ・「障害」者(児)…ハンディのある人たちが一緒に生活できる社会こそ正常なのだ、とするノーマライゼーションの考え方を基本に施策を進めます。そのためには「障害」者自身が政策の企画・立案に参加し、暮らしを妨げるまちの障害をハード・ソフト画面にわたって一歩ずつ取り除いていくことが必要です
- 2) 従来の健康観を見直し、積極的予防と健康づくり運動を実施
- 3) 働くものの命と健康を守り、心身ともに元気の出る職場環境を。そのために専門機関(啓発・予防・相談“救済など)と協力して対処
- 4) 女性が働きやすい職場環境に整備するとともに保育圏・学量保育の保育料負担の軽減、保育内容の充実をはかる

上谷耕造のおもな経歴

1949	(S24)年	香川県小豆島生まれ
68	(S43)年	香川県立土庄高校卒業
同年	4月	立命館大学法学部入学 寮自治会委員長として大学闘争や社会運動に参加
72	(S47)年	八幡市役所に入り財政(8年)、財産管理(1年)、秘書 広報(=課長補佐、1年)を担当。 その間、市職労運動をはじめ自治労綴喜地協青年部長、 同府本部青年部常任委員として労組運動に従事。
82	(S57)年	同市役所を退職。新聞・雑誌などの企画・編集に従事。
86	(S61)年	ボランティア団体・労災福祉センター(京都市南区)設立 に参画。八幡市内では安全な食べ物の共同購入、保育園 保護者会運動に参加。 90年2月、衆議院選挙では山中末治(社会・京都二区) 男山後援会の事務局次長として当選に寄与。
現	在	労災福祉センター事務局長、子供の命を守り育てる会 代表、八幡第四小学校育友会長(市育連本部役員)、ぶど うの木保育園保護者会前会長として子育てや教育、労災 被災者の相談・救援・予防活動のほか心の健康(メンタ ルヘルス)相談にも従事している。 また、原発止めよう!八幡の会、使い捨て時代を考える会、 きょうと市民のネットワーク、大阪湾会議、社会医学研究 会、ウトロを守る会の各会員として社会活動に参加してい る。 「こんにちほ! 男山新聞」発行人。
	X	X
趣味		スポーツ(とくに野球=中学時代、野球部に所属。なお 中学時代、東京オリンピック聖火リレーに参加) 自然観察
家族		本人と妻、子供3人(長女=小学5年、長男=小学2年 次男=保育園)

うえたにこうぞう

9/22 上谷耕造とともに行動する 市民ネットワーク (略称:くまネット)

発足パーティー



▲上谷耕造さん(くまのうーさん=写真上)とともに、市政や街づくり、子育てなどの夢を語り合う(同右)

こどもたちもぜひきてね!



＜呼んでかけ人＞(期不同)



1990年9月22日当日

親子の夢を市政に

人が動く暮らしが変わる!

☆

記録的な猛暑続きの今年の夏もようやく終わり、木津の川原には赤とんぼが舞い、透明な涼風が川面を渡りすすきの穂を撫でる爽やかな季節となりました。みなさん、いかがお過ごしでしょうか。

実は私たち、10年間八幡市の行政に関わり、現在も市民の立場から幅広い活動を進めている上谷耕造(うえたに・こうぞう)さん(=愛称:くまのうーさん)とともに、自分たちが日々暮らしを営み子供たちが育っていく男山・八幡のまちを見つめ直し、より良い住みかとしていくために行動する仲間づくりをしよう準備を進めてきました。会の名称は「上谷耕造(うえたに・こうぞう)とともに行動する市民ネットワーク」といい、略称は「くまネット」。

手作りの楽しい催しがいっぱい!

☆

いま、私たちの周辺には、地球環境問題などの大きな問題から暮らしや子育て・教育、仕事や福祉、街づくりに到るまで様々な問題が横たわっていますが、こうした問題を色んな角度から考え、市政に反映させていきたいと思ひます。

個性あふれる人間たちが積極的かつパワフルに、そして明るく楽しい奔放な活動をと意気込んでいます。果たしてどんな集団になるでしょう。22日の発足パーティーが楽しみです。

心のコもった料理や演奏、マジックなど楽しい催しいっぱいの手作りパーティーにぜひ、ご家族連れでご参加ください。



くまネット(上谷耕造とともに行動する市民ネットワーク)

- 日時:九月二十二日(土) 午後三時~六時
- 場所:男山団地中央センター 集会所ホール(日49棟2F) 番〇七五九八二二二一三三
- 内容:第一部:私たちがめざすもの(基本政策)ほか
- 第二部:立食パーティー&ミニ

■参加費:一家族千円(できればコップ、ハシ、お皿をご持参ください)



発足パーティー

(1990年くまネット 資料6-6)

上谷耕造とともに行動する市民ネットワーク (略称:くまネット)

(名称)

第1条

この会は、「上谷耕造とともに行動する市民ネットワーク」(略称「くまネット」)といい、事務所を八幡市内に置きます。

(目的)

第2条

この会は、八幡市を住みよい街にするために奮闘する上谷耕造の政治・社会活動を支持し、輪を広げ、ともに行動していくことを目的とします。

(活動)

第3条

この会は機関紙の発行、講演会、報告会、親睦会、その他目的達成のための活動をします。

(会と会員)

第4条

この会は、設立の趣旨及び会の目的に賛同する個人で構成します。

(役員)

第5条

この会は、代表(1名)、会計(1名)その他必要な役員を置きます。

(財政)

第6条

この会の財政は、会費及び寄付金、事業収入でまかないます。

(付則)

この会の規約は、総会(年 月)をもって効力をもちます。

私たちのキャッチフレーズ

- * こどもらに 緑と豊かな大地を
- * 共に生き共に育つまち 八幡に
- * 市民パワーの結集で 高感度市政の実現を!

立命館朋友

<46>

「お金や組織を持たない『ただの市民』の声を市政に、の姿勢なんです」と言うのは、京都府八幡市議会議員の上谷耕造(一九七二年法卒)。

市議会リポートと活動報告を定期的に発行し、その中で自身の報酬と支出を公開するほか「地域住民のコミュニケーション」のシャズや中国音楽のコンサートも企画運営するユニーク議員である。小豆島の出身。「百万遍寮に入寮したんですが、年上の同期生が多かった。皆が日常的に漢字と横文



上谷 耕造氏

ルチャーシヨックを受け、猛烈に本を読んだ。一遍に運動、に目が見開いてしまった(笑)。二年から寮長の自治会運動に端を発して、いわゆる全共闘

「ただの市民の声」を

字の社会科学用語でしゃべっているのを聞いて、カ

運動へ。「議会制民主主義を否定、直接闘争の時代でした」卒業後、八幡市職員と東京での「社会派の新聞・雑誌社」勤めを経て、労災福祉センター(京都市南区)設立の世話人に。男山団地に住み、「図書館を造る

う、リサイクルを考えよう、在日外国人の指紋押捺を考えようと同世代が集まって住民運動をするうち、そのまま終わらせたくないと思ったのが、市議選出馬に至るきっかけ。九一年初当選。市議会総務委員、市監査委員を務め、「行財政のリストラ」から「男山ふるさと構想提案」まで幅広く発言している。「身の回りから変革し



2000年8月16日事務所にて

ていきたい」と淡々と話す上谷に、好きな言葉を聞けば、「理想は高く、姿勢は低く」。立命館総長だった末川博の言葉である。

上谷耕造のこと

2012年12月8日(土)午前中、八幡市内の病院で点滴を受け、少し元気になって起きていました。午後、昔からの友人の来訪を気にもとめず、「菜の花畑」を口ずさんでいました。童謡唱歌が好きでした。

ちょうどテレビで吉本新喜劇をやっていて、面白かったのか声を出して笑いました。「久しぶりに笑ったなあ」って言葉が、家でちゃんと聞く最後の言葉になりました。

ノートには下記の他にも「雨降りお月さん」など多数筆ペンで書いていました。

人生の目的は幸福と安よ。(2012年上谷耕造ノートより)

出世や金もどけ、物乞いとはなく、

しあわせ、とは何か?

誰か金もどけずじに家産か平和と常に
笑いを失うとはなく暮らすこと(仲良く)

知足精神といふも前を向いてこの世の世を歩けばいい。

菜の花畑に入り陽浴れ
見渡す山の端霞深く
春風とよ吹く空と見れば
夕月がかりとにおいさそ
菜の花や
日は原に
日は原に

(2012年上谷耕造ノートより)

結婚する息子へ
おれもなと。
東の主人とらるまめはなく、
真の主人とらるまめはなく、
どのまめも
暮らして心かけ、勤勉を有れ。

1923.2.2 ヤマゴイデヤ、
マハトマ・カマ
Mahandar
Karamchand Gandhi

(2012年6月に結婚する息子に向けて書かれたか?ガンジーの言葉)

●上谷耕造(うえたに・こうぞう)のプロフィール

- *1949年 香川県小豆島生まれ
- *1972年 立命館大学法学部卒業
- *1972年 八幡市役所勤務 おもに財政、広報を担当
- *1982年 退職 その後上京、出版関係に従事し福祉ボランティアやPTA活動に携わる。
- *1991年 八幡市議会議員に初当選 以降、連続4回当選 副議長・議長を歴任
- *2004年 八幡市長選挙に出馬、落選。「浪人時代」はNPO法人八幡だけくらの活動に参加、同あつたかサポート(京都市)設立に参画。日本エコミュージアム研究会会員。
- *2007年 八幡市議会議員に復帰(通算5期目)
- *2008年 「市民が元気なまちに！」VOL.1 発行
- *2009年 地域サロン「八幡まるごと館」オープン
- *2010年 「市民が元気なまちに！」VOL.2 発行
- *2010年 「古からの贈り物—東高野街道 歴史ロマン」発行
- *2011年 市議第2期選挙当選(通算6期目)
- *2012年10月 「市民が元気なまちに！」VOL.3 発行
- *ほかに企画協力=「男山地域のまち再生 八幡市の生き残り戦略レポート」(男山地域再生研究会・浜田保刊 2010年6月)、「八幡未来計画」(八幡未来研究G・浜田保刊 2012年6月)
- *毎議会ごとに市議会 REPORT「こんにちは! 上谷耕造です」を定期発行。また、会派として「みどりの薫風」を年2回発行している。
- *議員報酬のお手盛りアップに反対、今も約100万円超法務省に供託

- *2012年12月13日 死去
- *2012年12月 「市民が元気なまちに！」VOL.4 発行
- *2013年11月 「ほっとするまちへ」発行(順子記)



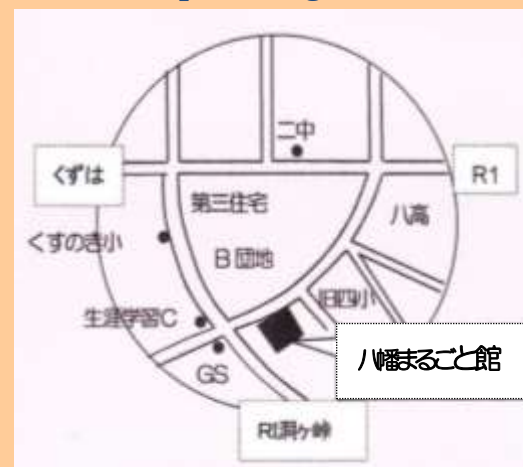
2012年3月病院近くの鞆公園で

- 現住所 八幡市男山松里 12-20
- 電話 (自宅) 075-983-3091
- 事務所 八幡市男山松里 12-20 電話075-983-3664
- ★八幡まるごと館のおもな催し(毎週火曜日は休館)
- *地元農家による地域の新鮮野菜、花木、果物、漬物の直売(低農薬・安価・朝採り・生産者の顔が見える—が基本)
- *地域の人や道行く人たちが自由に立ち寄り、おしゃべりできるサロン”
- *パッチワーク、着付け教室、絵手紙、正月用しめ飾り、布ぞうり・みそ・ぬか床づくり。また、パソコンや子どもの英会話教室のほか、各種会議用の貸館としても利用されています。
- *このほか、春と秋の年2回大規模な「まるごと市」を開催、多くのフリーマーケットや野菜市、飲食物などが並び、にぎわいます。

- 冊子名 「ほっとするまちへ」
- 発行者 (元八幡市議会議員) 上谷耕造
上谷順子
- 発行日 2013年11月
- 連絡先 八幡まるごと館
(住所) 八幡市男山松里 12-20
(TEL&FAX) 075-983-3664

●E-mail/[ywatamarugotokan.net](mailto:yawatamarugotokan.net)

●URL/<http://marugotokan.net/>



- 表紙写真上 1990年8月ぶどうの木保育で車座で市政等について話し合う
- 写真下 1991年頃 子どもたちも空き缶回収